



元気のある加佐地域をめざして

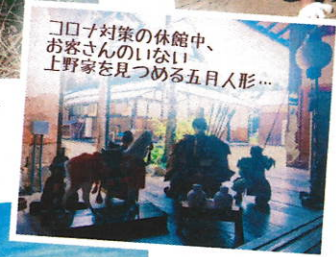
昨年、コロナ禍の中、加佐地域農業農村活性化センターでは、「心豊かに住み続けられる地域づくり」をめざして、事業の中止や縮小も行いつつ、その推進に努めました。

年々増加する空き家の対策は、空き家所有者のバンク登録の掘り起こしに努めるとともに、移住希望者の空き家案内等を行いました。

また、加佐地域をはじめ、本市の東・西市街地や都市部の皆様に自然豊かで農産物の宝庫である加佐地域の魅力や良さを発見・再認識していただくため、その情報発信に努めるとともに、美しい農村の風情に触れていただくことにより、移住・定住促進につながるよう、そば教室や味噌づくり体験教室の開催など、農業体験の場の提供に努めました。さらには、神崎らっきょうプロジェクトや西方寺平地区の棚田オーナー制度の支援等に取り組みました。

今後も様々な事業を企画し実施しますので、多数ご参加ください。

加佐の一年を振り返る



加佐そば教室

3密を避けてのそば打ち体験



そばの種を8月に蒔き、9月は除草とそばの倒伏予防の土寄せ、10月に手刈りしてビニールハウスで乾燥をし、脱穀機と唐箕できれいなそばの実になりました。しかし、実に水分が多く残っていたので、さらに上野家で天日干しをするなど、たくさんの手間暇をかけてようやく製粉できる実の状態になりました。

その後、上野家のそば工房で石臼精粉、種2kgで約1.5kgのそば粉ができ、最終日の12月13日にはそば打ちと試食をしました。

先生に教えていたがきながら、太い麺や短い麺が上手にでき上り、自分で作ったのは美味しいと舌鼓を打っておられました。



蔵展「姫の和衣」出展者、なゝ姫飛矢文氏の手掛ける、簡単に着られる創作着物の試着会を開催しました。

「着物に興味はありましたが、敷居が高く、なかなか着る機会がありませんでした。もっと気楽に挑戦したいです。」「難しいというイメージが変わりました。」と楽しまれました。展示は1月25日(月)まで。

創作着物の試着体験会を開催



1月29日(金)～2月27日(土)
蔵展「気まぐれ絵画と緑な写真」
3月2日(火)～3月29日(月)
蔵展 創作帯結び丹後帯人形「感謝」

今後の予定